



一般社団法人
うるわしの桜井をつくる会
〒633-0091 奈良県桜井市
桜井1259エルトさくら内
TEL&FAX:0744-47-3981
URL: <http://lets.some.jp>
E-mail: lets@some.jp

平成24年11月

うるわし通信

ヨコへのつながりを拡げましょう！

「いじめ」が発生したようです。当然わたしたちの持つ、小さく平凡なものです正義感が刺激されます。この場合、まず正義感をヨコに拡げることが第一だと思います。

勿論、教育制度の改革を行政に訴えたり、司法に処断を求める運動も決して無用のことではありません。むしろ、こうしたタテへ向うことはとても大切なことです。

しかし、市民運動として捉えると、まずヨコへ拡げねばならないと思うのです。柔かくいえば「雰囲気づくり」硬くいえば「世論の形成」です。

殺人罪、傷害罪があるから殺してはいけない。傷つけてはいけない。というのではなく、人が人を殺してはいけない、傷つけてはいけない。という観念が共通する当り前のことになり、倫理・道徳の基本になり、後に法で明文化されたのであって、その逆ではない筈です。

「いじめ」は罪悪であること

をヨコへ拡げ定着させましょう。

現代の「いじめ」の発生源は核家族による人生哲学伝習の破壊、経済格差が生み出した無力感、絶望感などがあげられています。このほか「生活水準差別」「結婚差別」「国籍差別」「教育差別」「就職差別」など、世の中に「いじめ」の材料はワンサカとあるようです。

しかし、わたしたちが最初で、最後にするのは人間への信頼です。

人は生まれながらに個人として尊ばれる存在ですが、同時に個人だけでは生きていけないのです。人と人とのヨコのつながりが、まっ先に存在

するのです。人が人を信頼しないでどうして生きていくことができますか？

孤立は反人間的なことなのです。個人が個人を認め合って「共生」するべきです。そのためには「交流」が必要です。「信頼」「共生」「交流」どれが前後するということでもなく、この三つがお互いに支え合ってヨコへのつながりを強めるものなのでしょう。

この反対を考えると、信頼しない。共生しない。交流しない。なんと殺風景なことではありませんか。これでは生き甲斐がありません。生き甲斐を希求することが市民運動の原点と思います。



菜の花を植える児童

教育の現在 ～いじめはなぜ起きるのか～

教育を考える学習会第1回（うるわしの桜井をつくる会・教育部会主催）が平成24年10月19日（金曜日）に「まほろばセンター」で開かれた。参加者は約30人。予定されていた講演者の芝房治氏が緊急入院のため、同教育部会責任者の島岡将氏が話題提供者として「いじめ問題」について語った。同氏の発言の要旨は次のとおりである。

- ・1980年代（バブル経済期）に入ってから、いじめは不登校や校内暴力とともに社会問題になった。以後、いじめはインターネットや携帯電話の普及ともあいまって複雑・多様化して今日に至っている。

- ・いじめの原因は児童生徒の精神の不安定にあるが、この精神の不安定は現代社会の構造的な病理である。したがって、いじめ問題については臨床医学的な診断と処方だけでなく、20世紀後半の日本の社会構造の変化についての分析と新しい社会システムの構築に向けての展望をもつことが求められる。

- ・1960年代の急激な経済成長は社会的な環境変化と意識の近代化をもたらした。このことは、一方で個人の自立と主体性の確立を促したが、他方では近隣社会に対する人々の無関心を生んだ。無関心型住民層の増大は地域共同体の崩壊を導き、その結果人と人とのつながりが失われ、人々は孤立感を深めることになった。経済成長に支えられた日本の近代化は、「個人化」が「孤人化」をもたらすという背理を内在させていた。80年代のバブル経済期から今日に至るいじめ問題はこの背理に起因する社会現象である。

- ・コミュニティを再生し、孤立化した個人と個人とのつながりを回復する。

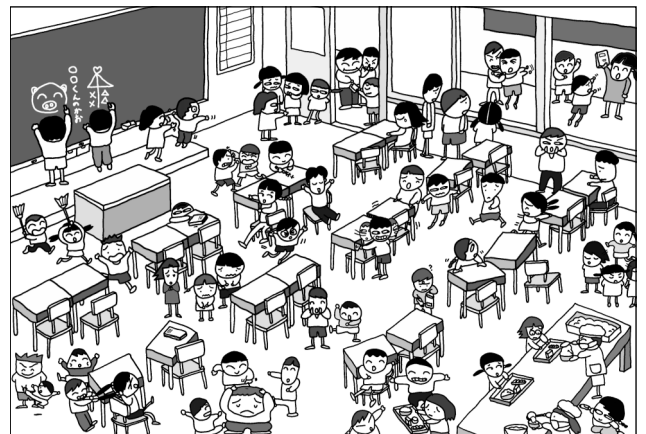
- ・経済成長を絶対的な目標としない倫理的・精神的要素をそなえた定常型の政治・経済システムへの転換を図る必要があるのではないか。

- ・いじめ対策について①行政による対策と②教育的取り組みによる対策について報告があった。①については、国（文科省）が従来の学校・教委任せの方針を転換し、いじめ「支援対策室」を設置し「いじめ対策アクションプラン」を策定したこと、地方自治体の取り組みとしては岐阜県可児市の「子どものいじめの防止に関する条例」制定が、また②については、長野県下伊那郡高森町中学校の生徒による「小原ヶ丘（こばらがおか）憲法」の制定が紹介された。

- ・大津市中2生徒のいじめ自殺事件から見える問題点として、学校の対応の遅れ、教育委員の顔が見えないこと、教育委員会の隠蔽体質などが指摘された。

- ・桜井市立中学校いじめ問題について、東市議会議員から県教委作成の「検証レポート」に基づいて報告があり、学校の対応の遅れが改めて指摘された。

- ・討議の時間の中で教育委員会制度について意見交換がなされた。



教室内のいじめを探しましょう

談山セッション

講師の上野誠はさすがに文学者ですね。三島由紀夫の「権力者を憎悪し、復讐の炎を燃やす、これが花とひらいたものが芸術であり、文学である。芸能者にはそのような遺恨がある」と喝破されました。

続いて登場した石井満隆は講師の言葉を裏書きするように、神社という神聖な空間に全身で挑み、美事な身体表現を展開した。これを鼓舞し、挑発し、激励するYAS-KAZの打楽器を主とする演奏も素晴らしかった。観客と演者と相まって終始、一体の緊迫感を保った空間を造り上げたのは、近年の観ものの一つであったとして過言ではない一日でした。

(10月28日 談山神社権殿 観客70名)



石井満隆のパフォーマンス

第2回まちづくり講座

「ボランティア朝倉台」代表小野田和子さんを講師に「第2回まちづくり講座」が開催されました。

小野田さんは平成15年にボランティア朝倉台を立ち上げ、現在105名のボランティアの代表として活躍されています。約1000世帯3000人が暮らす朝倉台にも少子高齢化の波が押し寄せ、とりわけ高齢者が暮らしにくくなっている現状と、そのような中で、安心して住み良い町づくりをめざして行われている「協働型地域社会づくり」「安心安全ネットワーク」などの様々な取り組みを報告され、いい町をつくるために取り組んでいる住民の姿、人々とのつながりこそ最も大切だと強調されました。

(10月31日 桜井西ふれあいセンター)



小野田和子さんを講師に

金剛山歌劇団舞踊ミュージカル「春香伝」

在日の著名な歌劇団。県内での公演は6年ぶりとのこと。生演奏の楽団をふくめると出演者60名という豪華な舞台。内容は古典劇からとった身分差をこえる恋愛劇ですが、社会観もあり、幻想美もあり、スピード感をもって進行する現代ミュージカルでした。

色彩感溢れる衣裳、洗練された舞踊は典雅なもの、アクロバティックなもの、それぞれに目を楽しませてくれました。なお、昼の部は身障者への無料招待もあり、在日朝鮮人、韓国人との意義ある交流の一日でした。

(10月31日 桜井市民会館 観客昼夜計1,200名)



春香伝的一幕

事務局だより

- 教育部会：11月16日(金)午後1時30分より「第2回教育を考える学習会」をまほろばセンター第5研修室で開催します。
奈良女子大学附属中等教育学校非常勤講師の土方由紀子講師による、演題「学校のなかのいじめ、私たちにできること」です。土方講師は長年、中学校教諭として教育現場にたずさわって来られた方です。
- 11月の常任理事会は11月17日(土)午後1時30分よりエルト桜井第6研修室にて開きます。
- 歴史部会：11月21日(水)午後1時30分より部会をエルト桜井第6研修室にて開きます。
話題提供者 浅川肇 この他、独自に歴史を大小に関わらず研究されたり、探索されておられる方の発表も予定しています。歴史好きの方のご参加をお待ちします。
- 少し早いですが来年の1月に「第2回新春交流会」を予定しています、会員に限らず知人・友人をお誘いの上、ご参加下さい。

会員だより

当会会員のマジック×マレットさんはHAPPY EARTH DAYを主催して外国へ支援物資を贈っています。

～外国へ贈ろう～

文具などものを必要としている外国の人へ贈る(送る)物資を募集しています。
未使用・書き損じはがき・使用済み切手
筆記具(ノート・鉛筆・ペン・クレヨン
定規など)使用済インクカートリッジ
ズボン・Tシャツ・スカート・トレー
ナー・ジャージ(クリーニングしたもの、
または自分で洗濯してアイロンをかけたもの
をお願いします。中学・高校などで使った
ジャージが特に喜ばれています。)

連絡先 桜井駅北口 マジック×マレット
TEL 0744-43-2226



タイの子どもたちからお礼の写真が送られてきました

特命オンブズマン

今月は休刊します -芝 房治-

会員募集中 どなたでも(市外の方も)入会できます。くわしくは事務局まで。
年会費 個人¥2,000 法人¥20,000

編集後記 毎週金曜日の午前10時から正午まで、まほろばセンター内の桜井都市開発の応接室をお借りして事務局会議です。といっても堅苦しいものでなく、よも山話の中から取り組める課題を探すという感じで、開かれた会議を目ざしています。どなたでも提案したい課題をお持ちの方は遠慮なくお越し下さい。交流は基本です、雑談の中から展望がひらかれることもあるのです。(あさ)

うるわし通信編集責任者
〒633-0091
桜井市桜井142-5-203
浅川 肇
TEL090-1961-6345